

MELON 情報紙

Miyagi Environmental Life Out-reach Network



2023年4月★第145号

祝「宮城県ストップ温暖化賞」受賞!

今年4回目となる「宮城県ストップ温暖化賞」の受賞者に、なんと！宮城県地球温暖化防止活動推進員の5人からなる「コミュニケーターチーム」が選ばれました！

「コミュニケーターチーム」は、身近な行動を地球温暖化対策につなげてもらうことを目的に、生活に密着した食品ロスや水循環などの様々なテーマで出前講話等の活動を行っています。意見を出し合いながら作った資料の創意工夫や、ストップ温暖化センターみやぎ等との連携により活動の波及性が期待できる点で評価されました。また、こちらのチームは、2022年7月に開催された体験型・対話型イベント『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ』でも「サイエンス・デイAWARD2022」

の「わかりやすくおいし賞」を受賞しています！これからますますのご活躍を応援しております！

また、2023年2月に開催された「脱炭素チャレンジカップ2023」では、多数の応募の中から書類審査で選ばれたファイナリストとして、宮城県から2団体が出場し、「特定非営利活動法人 スパッと鳴子温泉自然エネルギー」が「気象キャスターネットワーク 最優秀市民・学校エコ活動賞」を受賞！さらに「株式会社宮城衛生環境公社」が「再エネ100宣言 RE Action賞」を受賞しました！

宮城県内の脱炭素に向けた取り組みが評価され、うれしいですね！各取り組みや受賞内容については、ぜひ二次元コードからご覧ください。



コミュニケーターチームの皆さんおめでとうございます！



↑「宮城県ストップ温暖化賞」詳細



↑「脱炭素チャレンジカップ」詳細

「宮城県ストップ温暖化賞」とは

宮城県では、県内における地球温暖化対策の促進を目的に、令和元年度より地球温暖化対策に資する優れた取組や活動を行う個人または団体を知事が表彰する「宮城県ストップ温暖化賞」を行っています。

MELONとは 公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク通称『MELON』。1992年の地球サミットをきっかけに翌'93年に誕生しました。緑と水と食をとおして環境とくらしを考え、地域と地球環境に寄与しようと多くの市民、学者、知識人、協同組合、企業、団体で作られたNGO（非政府組織）です。地域と地球環境を守るため1人ひとりの参加と協力をつなぎます。

MELON 会員募集

MELONの活動は会員の会費で支えられています。

MELON会員特典

- MELON主催イベントに会員割引で参加できます。
 - ごみや水、緑や食、自然エネルギーや企業の環境の取り組みなどをテーマに勉強会や見学会を行う部会に参加できます。
 - ボランティアや部会に参加することによりボランティアポイントが1個もらえ、5個集まると1,000円分のMELON商品券と交換できます。
 - MELONの活動や環境情報を掲載した情報紙をお届けします。
 - メールアドレス登録で、会員同士の情報交換ができるメーリングリストに登録できます。
- ～入会希望の方は事務局までお問合せください～

Index

- P1 祝「宮城県ストップ温暖化賞」受賞!
- P2 ストップ温暖化センターみやぎ通信 Vol.98
- P3 ストップ温暖化センターみやぎ通信 Vol.98
- P4 ストップ温暖化センターみやぎ通信 Vol.98
- P5 寄稿:SDGs 環境出前講話～スウェーデン編
- P6 覚書締結について/かんきょう見聞記
- P7 部会だより/目指せ100人!環境リレートーク
- P8 会員ひとこと～/MELONフォト
/イベント情報/COOL CHOICE/編集後記

ストップ温暖化センターみやぎ通信 Vol.98

ストップ温暖化センターみやぎとは 宮城県地球温暖化防止活動推進センターの通称「ストップ温暖化センターみやぎ」。2000年にMELONが宮城県知事の指定を受け誕生しました。全国各地の地球温暖化防止活動推進センターは、1998年に制定された「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき、地球温暖化防止活動の拠点として、各都道府県知事や政令指定都市等の市長が指定しています。

2022年度「SDGs 環境出前講話」実施報告

Point!

宮城県内の約3,900名の児童・生徒が受講。約9割以上の先生が「受講後に児童・生徒たちに変容が見られた」と回答しています。

環境省「地域における地球温暖化防止活動促進事業」の補助と宮城県の後援を受けて実施してきた環境出前講話も、2022年度で7年目となりました。

2022年度は、キリバス編31校、南極編と気候変動編10校、計41校で実施し、約3,900名の児童・生徒さんが受講しました。校種別に見ると、小学校30校、中学校6校、高校4校、専門学校1校となりました。

キリバス編の講師は、一般社団法人日本キリバス協会代表理事のケンタロ・オノさんです。南極編は、第49次日本南極地域観測隊員の石井洋子さんです。お二人には受講者の年齢に合わせて話の内容を変えていただきました。気候変動編は、学校側からの要望を受けて推進員の方々によるコミュニケーターチームやMELON職員が対応しました。

キリバス編と南極編ともに画像や映像がとても美しいので、できるだけ大きくきれいに写せるように学校にお願いをし、当日は、すべての講話にMELON職員が同行しました。講話を聞く児童・生徒さんの反応は、学校の実態や学年の発達段階によって様々でした。講師お二人の経験を基にしたキリバス編と南極編では、内容にぐいぐいと引き込まれていく感じが感じられました。気候

変動編では、クイズで楽しく学ぶ様子が見られました。

児童・生徒対象の事後アンケートでは、「講話の内容を伝えたい」を選択した子が1,378名、「関心を持ったことを調べたい」が1,322名、「解決のために行動したい」が1,444名という結果でした。先生対象の事後アンケートでは、「先生の方から見て児童・生徒に変容は見られたか」の質問において「とても見られた」「見られた」が96%でした。1回限り学校へ訪問する出前講話ですが、意識の変容につながったといえます。また、「講話後に調べ学習や解決のための活動を行ったか」の質問では、「行った」が70.8%でした。出前講話はその後の学習や活動を促すことにもつながったといえます。

さらに、講話を行った中学校から、生徒のお母様による手紙をいただきました。その主な内容は以下のとおりです。

「講話について娘から話を聞かせてもらいました。ケンタロさんの生き方や環境問題、自分たちができることなど、親子で話す時間を持つよききっかけとなりました。学校生活の話を子どもから熱心にしてもらえることが減っている中で、今回の経験はとてもすばらしいものだったのだと感じております。」

今後も継続して「SDGs 環境出前講話」を行うことで、多くの児童・生徒さんの意識の変容と行動を促していきたいと思います。次年度は、MELONで作成した気候変動や電気に関する小冊子を配布し、さらにその後の学習や活動も促していきます。



キリバス編の講師 ケンタロ・オノさん



南極編の講師 石井洋子さん

2022年度「SDGs教育プロジェクト」実施報告

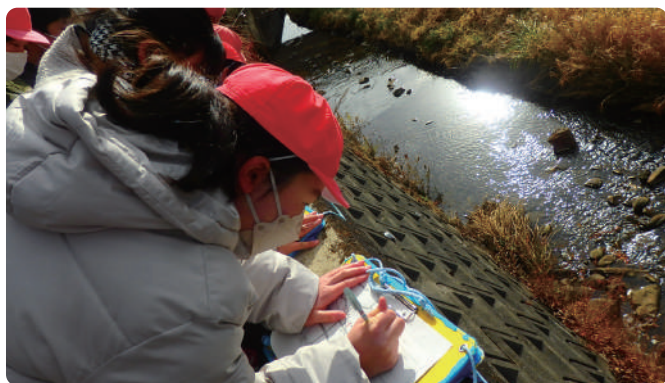
Point!

1年間で7校に累計50回MELON職員が訪問し、約20名の先生と約620名の児童・生徒と関わりました。

1日完結型の「SDGs環境出前講話」は、できる限り多くの学校で実施をしてきましたが、それに対して、エフピコ環境基金の助成による「SDGs教育プロジェクト」は、特定の学校での「継続支援」を主に行ってきました。

2021年度は、小学校の防災と気候変動に関するカリキュラムを体系的に編成し、複数の学習プログラムを作成しました。2022年度は、学校現場での学習支援に力を入れてきました。1年間に支援した小学校は6校、学習塾1校、児童生徒数は約620名、関わった先生は約20名です。累計50回ほど学校等を訪問しました。支援内容は、出前授業のほか、学習相談、教材の提供など多岐に渡りました。学校・学年は次のとおりです。

- ① 中野栄小学校6年生「キリバスSDGs学習」
- ② 中野栄小学校4～6年生「SDGsクラブ」
- ③ 南小泉小学校5年生「目指せ省エネマスター」
- ④ 八木山小学校5年生「こちら八木山气象台」
- ⑤ 泉松陵小学校5年生「地球環境問題」
- ⑥ 北六番丁小学校5年生「梅田川的环境学習」



北六番丁小学校・梅田川リバーウォーク



七郷小学校・食品トレーのリサイクル出前授業

- ⑦ 七郷小学校6年生「未来の七郷・荒浜まちづくり」
- ⑧ 七郷小学校4年生「食品トレーのリサイクル」
- ⑨ あすなる学院「ミライ思考」

先生対象の事後アンケートでは、「支援の内容はどうだったか」の質問に対して、全員が「とてもよかった」という回答でした。「先生の中から見て児童・生徒に変容は見られたか」の質問では、全員が「とても見られた」「見られた」という回答でした。持続可能な社会を担う児童・生徒さんの意識・行動変容に寄与することができたといえます。

また、先生からは次のような感想をいただきました。「本校のカリキュラムに合うように学習プログラムを作成していただいたので、児童の考えに深まりが見られた。特に、自分事として、SDGsの取り組みを身近に感じた感想が多かった。行動の大きな変容とまでは至らないが、2回の出前授業（亀崎先生の授業、スウェーデンとのリモート交流）で意識は少しずつ変容していると感じている。次年度も継続して6年生に取り組みせたいし、他の学年でも、カリキュラムに位置付けていきたい。」

「SDGs環境出前講話」と「SDGs教育プロジェクト」の事業についてさらに詳しく知りたい方は、新設したウェブサイト「みやぎのSDGs環境学習支援」（下記URL参照）をご覧ください。

持続可能な社会の創り手を育てる SDGs 環境出前講話 × SDGs 教育プロジェクト



ウェブサイト「みやぎのSDGs環境学習支援」

URL : <http://www.melon.or.jp/study/>



水族館との協働企画セミナー「海を守ろう 地球温暖化と私たち」

日 時：2023年1月22日（日）
 ①11：00～②14：00～
 場 所：仙台うみの杜水族館2階企画展示前
 参加者：30名
 内 容：①11：00～の回
 「仙台うみの杜水族館の取り組み」
 講師：齋藤 康秀氏（仙台うみの杜水族館 飼育企画 リーダー）
 ②14：00～の回
 「今、みやぎの海で起こっていること」
 講師：太齋 彰浩氏（一般社団法人サステイナビリティセンター 代表理事）



午前の講師・齋藤康秀さん



午後の講師・太齋彰浩さん

今、宮城県の近海では獲れる魚種が変化しています。その原因は海水温上昇によるものと考えられており、今回、海の生態系から気候変動について考えてもらうきっかけとして、仙台うみの杜水族館にご協力いただきセミナーを開催しました。

11時からの回では、齋藤康秀さんから仙台うみの杜水族館の取り組みをご紹介いただきました。スナメリの生態調査やペンギンの病気に関する研究、その他宮城県内の絶滅危惧種の保護・繁殖等を行っているそうです。14時からの回では、太齋彰浩さんより宮城県の海で起こっていることについてお話していただきました。特に今シロザケがほとんど水揚げされないことや生態系の変化は漁師の生活も脅かしているという現状を紹介していただきました。

一見すると変化のない海でも、その中は大きく変化していることを改めて知ることができました。今回、初めてうみの杜水族館での開催となり、これまでとは違ったターゲットに向けて気候変動についてお伝えすることができました！

2022年度うちエコ診断結果から見える節約＆省エネ術！

2022年4月から2023年2月末までに100件を超える「うちエコ診断」を実施しました。地域の環境イベントや宮城県庁ロビー、2023年2月にはIKEA仙台店で、うちエコ診断会を実施させていただきました！今後も様々な団体等と連携し、うちエコ診断を広めていきたいです。

2022年度、受診した方々に最も選ばれた省エネ対策は「暖房の設定温度を控えめにする」、次いで「暖房の使用を1時間短くする」でした。ついつい、暖房の設定温度を高めにしてしまったり、付けっ放しにしてしまったりしがちです



うちエコ診断の様子

が、少し気を付けることでエネルギー使用量やCO₂削減につながります！特に設定温度は1度控えめにするだけでも1割の光熱費とCO₂が削減されます♪

また、2023年2月に発行した小冊子「くらしで使う電気のこと」では、「電気のみほん」として電力会社から毎月発行される「電気ご使用量のお知らせ」の読み方や、ご自宅のアンペアチェックについても紹介しています。ストップ温暖化センターみやぎのウェブサイトからE-BOOK版が閲覧できますので、ぜひチェックしてみてください！



E-BOOK版はこちら

寄稿:SDGs 環境出前講話～スウェーデン編

東北大学農学部 時任晴央

2022年2月にストップ温暖化センターみやぎ主催の「COP26 報告会 in 仙台」に登壇してくれた時任晴央さん (Fridays For Future Japan)。東北大学農学部にて在学中、約1年間スウェーデンへ留学して環境学を専攻し、社会的な観点から気候変動問題を考察してきたそうです。12月には、七郷小学校の児童の皆さんに向けて、現地からオンラインでつなぎ出前講話をしていただきました。

Hej! (ハイ!) スウェーデン語で「こんにちは」という意味です。

2022年12月21日(水)、スウェーデンに留学中であつた私が、七郷小学校の6年生の皆さんに向けてオンライン講話を行いました。SDGs ランキングでは世界第3位と言われるスウェーデンの首都ストックホルムで、どのようなSDGsの施策が行われているのかを、実体験を交えて紹介させていただきました。



北欧最大の都市ストックホルム

持続可能なストックホルムの街づくりと市民意識

講話ではSDGs17項目のすべての取り組み例を紹介しました。たとえば、13項目にある「気候変動に具体的な対策を」では、ストックホルムの街を走る公共交通機関は全てバイオ燃料で賄われていることを紹介しました。さらに日本ではあまりなじみのない取り組みかもしれませんが、国連本部でスピーチしたことで日本でも知名度の高い環境活動家のグレタ・トゥーンベ

リと彼女の仲間が、毎週国会の前で気候変動対策を訴え、そして年に数回は、何万人もの人が集まってデモ行進をします。

他にも、スウェーデンの伝統的な文化や慣習についても触れました。「Fika (フィーカ)」はスウェーデンを代表する文化のひとつで、コーヒーを片手に大切な人たちと歓談するティータイムのことです。こうして会社の昼休憩や授業の合間に会話をすることで、他者理解が深まり、心地よい人間関係が生まれます。

また、スウェーデン人らしさを表すとされる「lagom (ラーゴム)」は、「多過ぎでも少な過ぎでもいけない、何事も応分であれ」という、日本でいう中庸のような価値観です。スウェーデンの人々はlagomをもって、様々な人種の人たちや自然と共存しよう、という考え方を持っているのです。

6年生の皆さんからは、「スウェーデンの暮らしは素敵だと思った」「ラーゴム。つめつめの人にストレスを溜めないようにする言葉」「わたしも将来ストックホルムに行ってみよう」などの感想がありました。非常に印象に残った授業となったようです。



スウェーデンでの生活で感じたこと

スウェーデンの人々と触れて強く感じたことは、すべての人が自然をこよなく愛し、家族との時間を非常に大事にしているということです。スウェーデンは日本に比べて冬が長く、遊園地のような娯楽施設は少ないですが、その分多くの時間を自然と親しみ、家族と過ごします。この暮らし方が、彼らの家族や環境を大切にしているのだと思いました。

MELON と KiriCAN が人材育成事業に関する覚書を締結

MELON と NGO キリバス気候アクションネットワーク (KiriCAN) は、2018 年 11 月に取り交わされた「地球温暖化防止活動推進の連携と協力に関する協定書」に基づき、MELON が地球環境基金より助成を受けて進めている「キリバス共和国におけるトロニバイ人材 (環境マスター) 育成事業」を効果的に進めるために双方協力する「覚書」を、2023 年 3 月 16 日付で締結しました。

締結式の後には、KiriCAN の来日メンバーと MELON の長谷川公一理事長のトークセッションを行いました。KiriCAN のペレニセ・アロファ事務局長は「3.11 からの復興に立ち向かっている宮城の皆さんから多くのことを感じ、同時に子どもたちや若者が希望であると感じました。MELON の活動は、気候危機や自然災害に備えられる次世代を育てているのだと思います。これから私たちの関係性を、より進化させていきましょう。この先の展開を楽しみにしています。」とコメントしました。また、

KiriCAN ユースリーダーのタニエラ・ヘサイヤ氏は「今回の来日での経験や学んだことを、一人でも多くのキリバスユースに伝え、キリバスでできることを考えたいです。」と今後への思いを語りました。



「誰にほめてもらいたいのか」 落語篇⑦ 五代目古今亭志ん生「淀五郎」 石垣政裕 (MELON 理事)

宮城県でも検出され問題になっている PFAS 化合物ですが、その規制に本気になって欲しいのです。国内では沖縄を始め、あちらこちらで見つかり、規制が厳しくなっているのに、問題の米軍基地は対象外 (朝日新聞 2022 年 12 月 21 日) なのだそうです。また、科学技術大臣会合が仙台でも開かれる G7 では、福島原発から処理した処理水を流すことにお墨付きを得ようとしているのだそうです (朝日新聞 2023 年 2 月 22 日)。日本の環境政策はいつたいどこを見て決められるのでしょうか。五代目古今亭志ん生の「淀五郎」(ザ・ベリー・ベスト・オブ志ん生 第 9 巻, ユーキャン, 1997 年) を聞いて

みましょう。

歌舞伎の演目「忠臣蔵」はみなさんもよく知っているでしょう。重要な塩冶判官 (えんやはんがん) の役に大抜擢された駆け出しの若い役者淀五郎。意気込んで臨んだ初日の舞台。名役者で座頭 (ざがしら) 市川團蔵の由良之助が、四段目で、切腹をしようとする自分のところに近寄って来るはずなのに、来てくれない。相手は名優だ。役者としてはもう失格だと死ぬ覚悟だったが、師匠の中村仲蔵に教え諭される、「いい所を見せて誉められたい、認められたいという淀五郎自身の欲が出ている。大名のくやしさが伝わってこない。」と。観客に真に伝わるような演技をせよと。

さあ、PFAS の規制から米軍基地を外し、処理水の海洋放出にお墨付きをもらおうとする若き『淀五郎』たちよ、誰の演技を見て、誰にほめてもらいたいのか、一緒に考えましょう。大地も海も汚されてしまう観客 (国民) に真に向き合いながら。

部会だより～食部会主催 『いただきます』上映会@まちづくりスポット仙台 開催報告

日 時：2023年3月21日（火・祝）
15：00～16：30
場 所：まちづくりスポット仙台 交流スペース
（キッズスペース有）
（仙台市泉区長命ヶ丘2-21-1 BRANCH 仙台
WEST 棟1F）
参加者：26名

MELON食部会メンバーの発案で実現した「いただきます」上映会。映画「いただきます みそをつくることもたち」（オオタヴィン監督・2016年）は、食育という言葉がないころから、玄米和食の給食と子どもたち自身による味噌づくりを続けてきた福岡県・高取保育園の奮闘を描いたドキュメンタリー。

無邪気な笑顔で、おいしそうに給食を食べる子どもた

ちの姿から「食べることは生きること」というメッセージが自然に伝わってきました。

鑑賞後には、MELON食部会の冬木勝仁部会長が、宮城県は大豆の生産量が全国2位であることや学校給食の無償化が全国的に進んでいる現状を紹介し、「無償化を進めるだけではなく、子どもたちが口にする給食の中身や質についてもあわせて考えていくことが大切だと思います。宮城は学校給食をオーガニックにしていくポテンシャルが十分にあるのではないのでしょうか。」とまとめのお話をされました。参加者の皆さんからは「和食の良さが分かりました。」「ずっと観たいと思っていた映画だったので、見られてよかったです。」などの感想がありました。日々の食生活のあり方等について改めて考える機会になったのではないかと思います。



目指せ100人！ 環境リレートーク



第88人目の執筆者
茂木 みかほさん
（フリーランス／観音崎自然
博物館非常勤等）

はじめまして。現在、観音崎自然博物館で体験学習の指導や、逗子、葉山を中心に小学生対象の自然体験のお仕事をしています。海と山が身近にある三浦半島は、子どもたちが遊ぶのに絶好の場所です。私の得意分野は磯観察ですが、時には山、川にも出向き、自然観察のプログラムを行っています。

小さい頃から生きものが好きで、夏になると家族で新潟の海に行っていました（群馬県出身）。自営業で忙しい父が、年に一度家族旅行に連れて行ってくれる特別な場所が“海”でした。よく父が魚を突いてきてくれ、みんなで食べたものです。民宿のお風呂場に現れるフナムシは、子どもの頃は恐怖でしかなかったはずが、大人になってからはその生態を知りたくて、飼うほどに。じっくり向き合うと、どんな生きものでも可愛く思えてくるから不思議で

どんな想いのもとに、どんな活動をしているのか寄稿していただいているコーナー。執筆者に次の方を紹介していただくリレー形式で、環境活動の輪を広げていくことを目的としています。

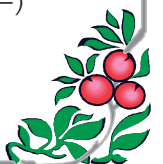
すね。幼少時代の自然体験が、二十歳過ぎにじわじわと効いてきて、気づいたら水族館に就職をしていました。そこから、生きもの、自然に対する興味はますます深まり、今でも尽きることはありません。これからも自分が楽しみながら、その魅力をたくさんの人に伝えていけたらと思っています。



組織所在地：神奈川県

… 次号執筆者紹介 …

小川真美さん
（認定NPO法人オーシャンファミリー）





会員ひとこと〜

会員の皆さんの環境への思いやイベントに参加しての感想を声にしていきます。

MELON30周年おめでとうございます！もともと環境問題には興味ありましたが行動に移すことはできませんでした。しかしMELON情報紙から様々な活動を知り、またイベントを通じて学習や体験をする事ができました。ありがとうございます！これからも活躍を楽しみにしています！

P.N MELONもメロンも大好き♪

MELON イベント情報

これから開催を予定しているイベント・会議をご紹介します。

イベント一覧（4月～7月まで）

4/16 (日)	楽天サステナブルデー出展
4/29 (土)	新緑祭出展
5/11 (木)	水部会例会
6/11 (日)	広瀬川全国一斉調査（水部会）
6/17 (土)	MELON フェスタ

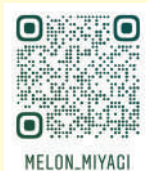
『MELON フォト』



1/22 (日) 仙台うみの杜水族館で開催「海を守ろう 地球温暖化と私たち」の当日の様子。



MELON
Instagramも
フォローよろしく
お願いします！



COOL CHOICE に ご賛同をお願いします！



地球温暖化対策のために、
今できる「賢い選択」。

「COOL CHOICE」は、脱炭素社会づくりに貢献する製品への買い換え、サービスの利用、ライフスタイルの選択など、温暖化対策に資する、また快適な暮らしにもつながるあらゆる「賢い選択」をしていこうという取り組みです。

賛同はこちらから

COOL CHOICE
賛同登録用
二次元コード



MELON情報紙のバックナンバーは
MELONウェブサイトにてPDFで公開
しております。



編集後記

■春ですね。犬の散歩をしていると、あの新芽が出始めた、この花が咲いた、と毎日発見があって楽しい時期です。そして、新年度の事業も始まる時期でワクワクドキドキです。(吉田)

■MELONに入って丸1年が経過しました。MELONを知らない人知ってもらえるよう、30周年記念事業の準備を進めています。(早川)

〈会員状況〉

663名
法人 53
任意団体 8
個人 402
2023年3月14日現在

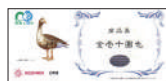
ボランティアポイントカード制度 をご活用ください

会員の方には、「MELON ボランティアポイントカード」を発行しています。部会・プロジェクトの例会出席、作業やイベントでのお手伝いをすると、1ポイント差し上げます。5つ貯まると1,000円分のMELON協力商品券と交換できます。



MELON 協力商品券とは

みやぎ生協、(株)日専連ライフサービスで発行している商品券です。金額の一部がMELONに寄付され、環境保全活動にいかされます。宮城県内の日専連加盟店及びみやぎ生協の各店舗でご利用になれます。



発行元 公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク (MELON) Miyagi Environmental Life Out-reach Network

〒981-0933 仙台市青葉区柏木 1-2-45 フォレスト仙台 5F

★事務局 TEL 022-276-5118 FAX 022-219-5713

★情報センター TEL 022-301-9146 FAX 022-219-5713

★ストップ温暖化センターみやぎ TEL 022-301-9145 FAX 022-219-5710

E-mail melon@miyagi.jp URL https://melon.or.jp

落丁・乱丁の場合は、MELON 事務局までご連絡ください。



この印刷物は、
輸送・マイレージ低減によるCO₂削減や
地産地消に着目し、国産米ぬか油を
使用した新しい環境配慮型インキ
「ライスインキ」で印刷しており、
印刷用紙へのリサイクルが可能です。